



はやし 幹 林もとひと県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

教職員の過重労働改善

林委員

「業務の精査が必要」

『時間短縮だけでは不十分』



9月定例県議会文教常任委員会に臨む林幹人委員

9月定例県議会文教常任委員会

成田市選出の林幹人県議は、だれもが住みやすいと思えるような千葉県を目指し、全力を上げています。県議会では文教常任委員会に所属、9月定例県議会では次世代を担う青少年のための教育環境整備のうち、教職員の過重労働改善について質問しました。林県議の文教常任委員会での質問と県教育委員会担当者の答弁を紹介しします。

林委員 教育長から本年9月に学校における働き方推進プランを作成したという報告があった。これは教職員の総労働時間の短縮に関する指針を実現するため

のものと理解しているが、このプランの実態として、い

わゆる在校時間が60時間、過労死ラインを超える教職員をゼロにするという当面の目標を設定したという話だった。そこで気になったのは、あまりにも時間に主軸を置きすぎるのも問題だということだ。実際の業務、どういった業務にどのくらい労力、時間がかかっているのかというのをしっかりと精査しないといけない。

仕事の内容に光を当てるべき

林委員 数値目標がだめだと、言っているわけではない。業務改善等をやっていくんだという話だったが、そこに主軸を置いた分析をした方がいいのではないかと。要するに時間が超過してしまうのは、仕事が終わらないからであって、ではなくて、仕事が終わらないのかという二人の教職員が抱える仕事が多量にも雑多で、あまりにも膨大で、加えて無駄も多いと思う。一つひとつ洗い出して、どの業務をやらなければならないのか、その業務一つひとつに対して、どれほどの時間と労力が傾けられているのか、そして、例えば「この業務は一人ひとりやる必要はなく、代表が一人やってそれを共有すれば済む」といった形で、一つひとつの仕事の自身と仕事の性質とそれに係る時間と労力をしっかりと分析し精査していかないと、実際の負担軽減にはなっていないと思う。そういう意味で、業務改善、勤務時間を意識していただくのは大事だが、仕事の内容に光を当てたプランの進め方をしたい。

要と考えると、数値目標を達成すればよいとは考えておりません。数値目標は働き方改革の進捗状況を顕彰し、PDCAサイクルを回していくうえで有効なツールだと考えています。

県教育委員会としては、働き方改革を学校の業務改善

と教職員の意識改革の両輪で進め、また、不断の改革を行いながら、教職員の負担の軽減に努めてまいります。

林もとひと県議・プロフィール

略歴		
昭和48年 9月	銚子市に生まれる	
平成 4 年 3月	銚子市立銚子高校卒業	
平成 8 年 3月	玉川大学文学部卒業	
	米国ロードアイランド州語学留学	
平成10年 4月	空港グランドサービス入社	
平成12年 4月	衆院議員・山崎拓秘書	
平成15年 4月	衆院議員・林幹雄秘書(成田市担当)	
平成19年 4月	千葉県議会議員初当選	
平成23年 4月	千葉県議会議員再選	
平成27年 4月	千葉県議会議員3選	

現職	
● 県議会	文教常任委員会委員
● 自民党	ちば青年部長

● 県政や成田市のご相談・ご要望はお気軽にどうぞ

林もとひと 県議事務所

〒286-0134 成田市東和田569 なるげや陶器ビル3階D号
TEL.0476-20-0884
FAX.020-4622-9781
Eメール:motohito884@gmail.com



Facebook 林 幹人

ホームページ

林もとひと

検索

教職員の意識改革図る



教育環境の整備などについて討議した文教常任委員会

林委員 学校における働き方推進プランでは教職員の意識改革を求めていくと

いうことだが、具体的にどのように意識改革を進めていくのか。

スクール・サポート・スタッフ 教職員事務 作業を補助 22校に30人配置

林委員 今年2月の県議会では我が党の代表質問に答える形で、スクール・サポート・スタッフを学校に配置すると答弁している。このスクール・サポート・スタッフというのは、教職員が行う授業準備だとか、校内掲示物の作成などの事務作業を補助するとされているが、配置の進捗状況はどうか。

教育振興部副参事 県教育委員会では、今年度新たに、モデル事業としてスクー

望 にもPDCAとあつ

望 にもPDCAとあつ

教育振興部副参事 県教育委員会では年間2回、出勤時間の実態調査を行うこととしており、本調査を行うことは、教職員一人ひとりに勤務時間を明確に意識させることにつながると考えています。

また、管理職に対しては、調査の結果、長時間勤務をしている教職員に対し、面談等を行うとともに、業務を効率的に進めることや、部活動の在り方を見直すことについて指導してまいります。

さらに、授業準備を効率的に行えるよう、教材等のデータを共有し、有効活用を図ることなども、各種研修会や会議等で指導するとともに、有効な取り組み例については、県のホームページで具体的に紹介してまいります。

たが、しっかりと進捗、効果を検証していただいて、効果が着実に発揮されるよう検討して進めていただければと思う。

プランに基づいて児童生徒が健全に育成できるように願う。教員が疲弊してしまつては児童生徒に良い影響は与えられないと思うので、ぜひ、教職員の処遇改善にこれからもしっかりと取り組んでいただきたい。

子供の成長の機会を親が奪っている!?

「失敗は成功のもと」とはよく言ったもので、人間は数々の失敗を繰り返して、その失敗を乗り越えることで成長していきます。

つまり「失敗したことがない」という人は「成長しない人」とも言い換えられる訳で、失敗はむしろ歓迎すべきものであり、どんどん失敗したほうがいいのです。

もちろんそこでくじけてしまつては本当に「失敗」に終わつてしまいますが、それを教訓に次に活かせば、これまで「失敗」と思えたものは全て「経験」に変わり、挑戦をやめない限り成長し続け、必ず成功するしかなくなりません。

ところが最近少子化の影響

響もあつてか、親の過保護が目立つ気がします。例えば「よそ見したら頭ぶつけるよ!」と注意していた親が見かねてその子の腕を引き、内側を歩くようにするなどは「過保護だ」と思います。

再三注意しているのだから、それでも頭をぶつけたら自分の責任です。まさか命に関わることもあるまいし、ぶつけさせたらいいんです。その痛みと引き換えに「よそ見しながら歩いたらあぶない」親の注意は聞くべき」次からは前を向いて歩くか、内側を歩くようにしよう」などと多くを学ぶのです。

今回親に腕を引かれて内側を歩いたことで、結果として

て頭はぶつけないで済んだでしょうが、学ぶ機会を失つたその子は、次もきつと同じようによそ見しながら歩くでしょう。つまり成長の機会を失つたのです。

「音楽があるから笛はもった?」「今日は傘を持っていた?」「今日は良いよ」と親がアドバイスをしすぎることで、音楽の授業に笛を忘れたらどうなるか、雨が降ってきたら傘が無かったらどうなるか、学ぶ機会を失っているのです。

子供がかわいいのは親として当然ですが、その愛情が結果としてその子のためになっているかどうか、もう一度よく考えたほうが良いかもしれません。

林もとひとブログから

「高齢化社会」「高齢社会」「超高齢社会」などという言葉、少子高齢化問題にあえて日本としては非常に聞き慣れた言葉ですが、正しくそれぞれの意味を知っている人は多くないのではないのでしょうか。

WHO（世界保健機構）ではこれらについての定義があります。まず高齢化社会とは、全人口に占める65歳以上の高齢者の割合が7%を超えた場合のことを言います。日本では1970年にこの7%のラインを超えました。

さらに「高齢社会」は全人口のうち高齢者の割合が14%を超えた場合で、日本

では1995年にこのラインを突破し「高齢化社会」から「高齢社会」となりました。

そしてさらに2007年には65歳以上の高齢者が21%を突破。全人口のうち高齢者が21%を超えると「超高齢社会」となります。つまり、今の日本の高齢化率を考えた場合「超高齢社会です」と言わなければ、正しい言葉の使い方にならないのです。

ちなみに「超高齢化社会」という言葉はそれぞれが混ざつてしまつて使われているだけで、総人口に占める高齢者の比率を示す言葉としては正しい表現ではありません。

ただその議論の過程で、誤った用語が飛び交っていることに違和感を感じ、今回記事にしてみました。

【提言】日々のニュースで「本日のスクランブル」を!

先日、千葉県自衛隊協力会連合会 青年部会で航空自衛隊 峯岡山分屯基地を訪れた際、今回のタイトル「スクランブル」が話題となりました。

スクランブルとは、基本的に領空侵犯などに対して行われる戦闘機等の緊急発進のことです。日本では航空自衛隊がその役割を担っています。

一昨年度、昭和33年にスクランブルを開始して以来最も多かった59年度（冷戦時）の944回を大きく上回り、前年度比29.5回増の1168回に達しました。これは1日平均3回を上回るほどで、中国機に対する発進が全体の7割を占め最も多くなっています。

この情報は「調べれば」知ることができますが、本来日本国民全員が知っておくべきことではないでしょうか。我が国は1日に3回以上も、他国から侵略行為と疑われることをされていると。そしてそれを航空自衛隊が未然に防いでくれていると。

協力会メンバーの体験談でこのようにおっしゃっていました。「沖縄に旅行に行った際、空港に到着した時に空自のスクランブルがあつた。手荷物をとって空港を出ようとすると、またスクランブル。これはただごとではないと思い、ニュース速報をチェックしよう」とテレビの前へ。しかしどのチャンネルも森・加計問題ばかりだった。」

そこで私は提言します。日々のニュースで「本日の株価」などを取り上げていますが、それと同様に「本日のスクランブル」として毎日報じるべきではないでしょうか。

私たちが穏やかに日々を送れるのも、24時間体制で常に上空を警戒してくれている航空自衛隊の方々がいるからだ、きちんと認識するべきです。